

決算審査

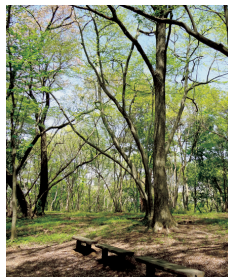
（歳入）

質 疑 過去の決算状況と比較して、市税の収入未済額は減少傾向にあり、収納対策の成果が出てきていると思う。さらなる歳入の増加は、より一層の市民生活の向上に寄与するので、今後の収納対策について、どのように考えているのか。

説 明 市政運営に当たっては財源確保が必要不可欠であり、市税などの収納率の向上は重要な課題であると認識している。今後に向けては、特別収納対策室を中心に、税金徴収を行う関係各課が一体となり、これまでに蓄積してきたノウハウを生かしながら滞納整理に取り組むことによりさらなる収納率の向上に努め、次年度以降の予算編成に反映していきたい。

（歳出）

質 疑 戸祭山緑地休憩施設新築工事実施設計業務委託として、戸祭山緑



▲現在の戸祭山緑地

地における休憩施設の整備に係る実施設計が行われているが、当該緑地に隣接する斎場跡地を含めた全体的な整備概要はどのようなものか。また、計画スケジュールは。

企業会計決算審査
（水道事業会計）
質 疑 東京電力株式会社原子力損害賠償金、約5,800万円の内訳は、また、この賠償金は当該年度だけではなく複数年にわたるものなのか。

説 明 当該賠償金は、23年度に執行した経費のうち放射能測定に要した経費と浄水発生土の保管処分等に要した経費から、既に国による補填を受けた8,000ベクレルを超える浄水発生土の保管処分等に要した経費を除き、東京電力に請求したものである。

説 明 戸祭山緑地は、昔あった緑地への復元というコンセプトの下、斎場跡地を含めた一体的な整備を進めており、今年度から排水整備や植栽などの具体的な工事に入ったところである。今回の業務委託では、設置を検討している休憩施設の構造、規模、利用形態等を比較検討したところであり、この検討結果を踏まえて27年度に休憩施設の整備を行い、28年度には駐車場や照明、案内表示等を整備し、28年度末に事業を完了する計画である。

るのでは。

説 明 下水道整備率は、旧市内地域で97・3%と整備がほぼ完了した状況となっている。その一方、上河内地域は69・9%、河内地域は60・4%に留まっていることから、当面は、これらの地域における整備を進めていきたい。また、上河内地域においては、現在検討されている都市計画の見直しの機会を捉え、計画区域の整理を行うしていきたい。



▲河内水再生センター

（中央卸売市場事業会計）
質 疑 人口減少時代の到来など、取り扱ひ量が劇的にふえる見込みのない中、どのような方向性をもって市場の運営に当たっていくのか。

説 明 市場の取り扱ひ量は年々減少傾向にあるが、北関東唯一の拠点市場としての重要性は高い

と認識しており、24年度に策定した中央卸売市場活性化ビジョンに基づき、集荷・販売力や市場内の連絡体制の強化などに努めている。今後も、品質管理の強化や他市場との連携強化などを推進し、取り扱ひ量の拡大につなげていきたい。

環境は非常に厳しく、これまでの努力では追いつかない部分もある。現状を打破するため、行政と市場関係者が、これまでに以上に知恵を出し合いながら、中央市場としての役割と本市独自の魅力を確立するための方策を検討し、より一層の経営の安定に努めてほしい。

公共交通問題調査特別委員会が報告書を提出

公共交通問題調査特別委員会では、東西基幹公共交通などについて提言した25年6月の中間報告に続き、公共交通ネットワークの構築について、最終的な報告書をまとめた。報告書の主な内容は次のとおり。

○バスネットワークの構築
・東西基幹公共交通に接続するバス路線の新設、運行頻度の向上、運行時間に合わせて始発の繰り上げ、終発の繰り下げの実施など。

○地域内交通
・運行のあり方、目的地設定、他地域との連携、他の交通機関との結節など。

○公共交通ネットワークの構築
・効率的に移動することが可能な階層性を持った公共交通ネットワークの構築、乗り継ぎ負担の解消に向けた取り組み、*スイカなどと連携したICカードの導入、公共交通の活性化など。



▲正副議長・正副委員長が市長に報告書を提出